

## 日本学術会議主催学術フォーラム

### 「われわれはどこに住めばよいのか？～地図を作り、読み、災害から身を守る～」

- 日時 平成 27 年 6 月 20 日(土) 13:00～17:00
- 場所 日本学術会議講堂
- 主催 日本学術会議
- 後援 日本地球惑星科学連合、地理学連携機構
- 開催趣旨

東日本大震災発災から 4 年余り過ぎましたが、大きな痛みは続き、復興は未だ道半ばです。現代の科学技術でこのような大災害をなくすことはできません。しかし、災害についてよく知るにより、被害を軽減することはできます。地形図や地質図、ハザードマップなどにはそのための情報が詰まっています。どんな地図情報があり、それからどう災害リスクを読み取ればよいか、また人々が自ら地図を作ったり活用したりして災害から身を守る社会はどうしたら実現できるかなどを、地球人間圏科学的視点から考えます。

#### ○次 第

【総合司会】 鬼頭昭雄（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系主幹研究員）

#### 13:00-13:10 開会の挨拶、趣旨説明

氷見山幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）

#### 13:10-13:30 「堆積物が教えてくれる大津波の痕跡」

佐竹健治（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

#### 13:30-13:50 「火山と共存する日本人が向き合う災害」

中田節也（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）

#### 13:50-14:10 「地域の災害特性を地理院地図で理解する」

宇根 寛（国土交通省国土地理院企画部地理空間情報活用推進分析官）

#### 14:10-14:30 「災害リスク管理のための地質地盤情報の共有化－忘れられた国土情報」

佃 榮吉（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人産業技術総合研究所理事）

（休憩）

#### 14:40-15:00 「分かりやすいハザードマップを作るための要件とは？」

森田 喬（日本学術会議連携会員、法政大学デザイン工学部教授）

#### 15:00-15:20 「地理情報と統計解析を用いた土砂災害の発生可能性の評価」

小口 高（日本学術会議連携会員、東京大学空間情報科学研究センター教授）

#### 15:20-15:40 「家や工場を建てる際には水害地形図で事前の検討を」

春山成子（日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究所教授）

#### 15:40-16:00 「防災・減災につなげるハザードマップの活かし方－地理学の視点－」

鈴木康弘（日本学術会議連携会員、名古屋大学減災連携研究センター教授）

#### 16:00-16:20 「ハザードマップの展開：最新情報と普及の実際」

寶 馨（日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所教授）

（休憩）

#### 16:30-16:55 ディスカッション

【司会】 村山祐司（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系教授）

#### 16:55-17:00 閉会の挨拶 奥村晃史（日本学術会議連携会員、広島大学大学院文学研究科教授）

○参加費 無料

○定 員 300 名

○問い合わせ先 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当まで

〒106-8555 東京都港区六本木 7-2-2-34

電話：03-3403-6295 FAX：03-3403-1260 E-mail：p228@scj.go.jp